

室内にいながら、外の温度がわかる カシオ計算機 電波クロック「infoview(インフォビュー)」

離れたところの温度や湿度が、今いるところでもわかったら——。ガーデニングやジョギングが趣味の人には、そんな希望をもつ人が多いらしい。その願いをかなえる電波時計が、カシオ計算機から発売された。時計本体だけでなく附属の子機にも温度・湿度センサが内蔵され、温度や湿度を知りたい場所に子機を設置するだけで、特定小電力無線によってデータが本体に自動転送されて、本体のモニターで確認できるというもの。計測範囲は0~40℃で精度は±2℃、見通しで約30mの通信が可能だ。1日24回の自動受信のほか、いつでも手動で受信ができる。デスクトップタイプで税込22050円。

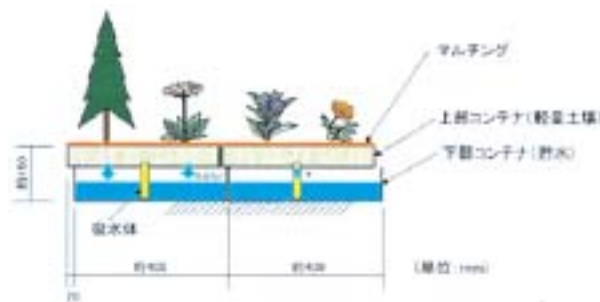
<http://www.casio.co.jp/release/2004/infoview.html>



ビルの屋上やベランダでも 生物多様性が見られる空間を 清水建設 「屋上用ユニット型ピオトープ」

現在、緑化面積の確保やヒートアイランド防止といった視点から屋上緑化に関心が集まっているが、清水建設は屋上緑化による都市の生物多様性の維持といった観点から、10㎡の「屋上用ユニット型ピオトープ」を開発した。生態学的知見をもとに植栽植物と植栽基板に工夫を施し、チョウの誘致を目標にしたタイプと、バッタの導入・定着を目的としたタイプの2種類をつくり、これらを同社屋上と地上部の2カ所に設置して、生物の誘致状況、定着状況を2年以上にわたって比較実験してきた。その結果、屋上でも地上と遜色ないピオトープの機能が発揮でき、都市の生態系維持に貢献できることがわかったという。ちなみに、同社の敷地内と屋上ピオトープで見られた昆虫の種類は合計47種で、ピオトープ設置によって種類は1.5倍程度に増加したそうだ。

http://www.shimz.co.jp/news_release/587.html



携帯電話がよいよ生活インフラに NTTドコモ、NTTドコモグループ 「iモード FeliCaサービス」

今年7月、NTTドコモグループは「iモード FeliCaサービス」を開始し、同サービスに対応した携帯電話「ムーバ 506iCシリーズ」および「FOMA F900iC」を発売した。このサービスは、携帯電話にソニーが開発した非接触型ICカード技術FeliCaを搭載し、iモードプラットフォームを利用して交通機関の決済や電子マネー、電子認証などを実現したもの。サービス対応携帯機器は「おサイフケータイ」と名づけられているが、その名の通り、この機能によって、コンビニなどで買い物をしたり、お店の会員証やポイントカード代わりにしたり、映画やライブのチケットを購入しそのまま携帯で入場したり、マンションやオフィスの鍵の代わりに使ったり、といったさまざまなことが携帯電話ひとつでできるようになった。

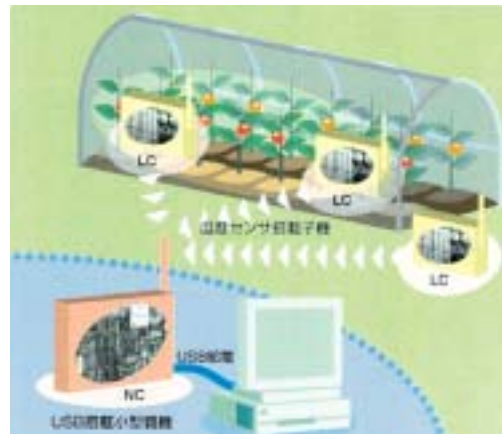
<http://www.nttdocomo.co.jp/info/new/release.html>



屋内外の温度管理や物品の位置管理ができる NTTアドバンステクノロジー 「ユビキタスセンサネットワークシステム」

この6月、NTTアドバンステクノロジーから「ユビキタスセンサネットワークシステム」が販売された。このシステムはUSB搭載の小型親機、低消費電力の温度センサ搭載子機、データ収集と表示をおこなうホストで構成されるが、複雑な配線を極力減らしており、子機を測定したいポイントに設置するだけでリアルタイムにセンシングできる簡便さが特長だ。屋内外に自由に設置できるため、農作物の霜害対策や屋内外の温度管理、GPSと組み合わせることで車や物品の位置把握などに利用できる。通信距離は見通し300m以上。システム価格は税込みで60万円から。

<http://www.ntt-at.co.jp/news/2004/release13.html>



尾瀬のコケで温暖化予測

東京農工大学 赤木右教授研究室

尾瀬の泥炭層は過去1万年にわたって堆積してきたそうだが、東京農工大学環境資源科学科の赤木右教授(地球化学)らは、この泥炭層のミズゴケに含まれる炭素同位体比が、過去の環境変動を忠実に保存していることを突き止めた。具体的には、過去の大気中の二酸化炭素のわずかな濃度の違いで、海面水位が変化することがわかったという。これまでも南極の氷の二酸化炭素濃度と海面変化の関係などが研究されてきたが、変動の様子は100万年単位でしかわからなかった。しかし今回、1万年以下という精度でわかるようになったことで、地球温暖化の予測に役立てられると考えられている。

<http://www.tuat.ac.jp/~akagilab/studies.html>

指紋でパスワードを認識できる 携帯型個人認証デバイス

NTTエレクトロニクス、NTT 「Finger Quick」

ネットワーク上で利用できるサービスが拡大している現在、セキュリティへの関心が高まっており、サービスを受けるときに不可欠な本人認証のなかでも、「なりすまし」が困難だといわれる生体認証が注目されている。とくにモバイル機器の機能が増加した今、モバイル機器に適した私たちの指紋認証認識装置のニーズが高い。そこでNTTエレクトロニクスとNTTは、汎用性が高く、ケーブル不要の携帯型で、利用者の違和感も少ない指紋認証トークン「Finger Quick」2種の販売を開始した。23×85×11mmの小型で、指紋読み取り、認証、データ登録・保管・照合までが可能。登録されたデータはデバイスの外に出ないため守秘性に優れているうえ、1種で多数のアプリケーションにも対応できるという。

http://www.nel.co.jp/new/information/2004_06_08.html



モノづくりの町・東大阪市の 夢の人工衛星「まいど1号」が シンボルキャラクターを募集

読売新聞社、東大阪宇宙開発共同組合

中小企業が集まるモノづくりの町・東大阪に拠点をもつ職人集団「東大阪宇宙開発共同組合」。不況や後継者不足などの厳しい環境のなかで、技術者・学生・専門家が集まって皆で人工衛星を打ち上げようというプロジェクトが進行中だ。夢の人工衛星の名は、いかにも大阪らしい「まいど1号」。今、このシンボルキャラクターの募集がおこなわれている。特別審査員は漫画家の松本零士氏、グランプリには賞金30万円が贈られる。応募資格はプロ・アマ、年齢ともに不問、メ切りは10月29日(金)消印有効。作品送付先は〒530-8551 大阪市北区野崎町5-9 読売新聞大阪本社事業開発部内「まいど1号シンボルキャラクター」応募係。TEL:06-6366-1848、FAX:06-6313-1634

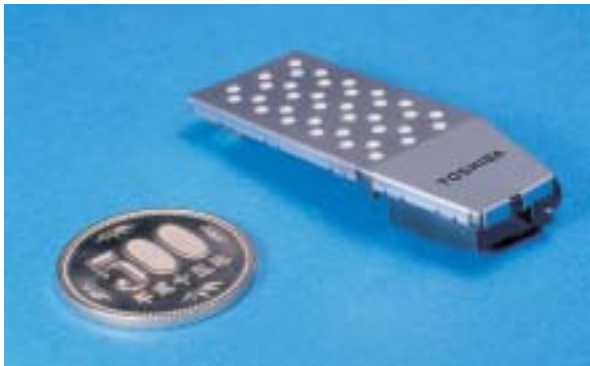
<https://www.osaka-event.com/event/maido/maido.htm>

ウェアラブル機器に最適な 世界最小の燃料電池システム

東芝

今年6月、東芝が、ダイレクトメタノール方式による世界最小の小型燃料電池システムを開発した。このシステムは22×56mmと大人の親指程度のサイズで、100mWの出力ができる。燃料は内蔵タンクに2mlまで入り、小型オーディオ機器であれば約20時間程度の駆動が可能だという。この小型化は、パッシブ型の燃料電池セルを採用したこと、電極内の触媒を数ナノレベルの微粒子にして高密度に配置する技術を導入したこと、メタノールを希釈せずに使用できるシステムを開発したことなどで実現した。2005年中の実用化を目指すと同時に、今後は高出力化を図り、モバイル機器、ウェアラブル機器全般への搭載を目指していくという。

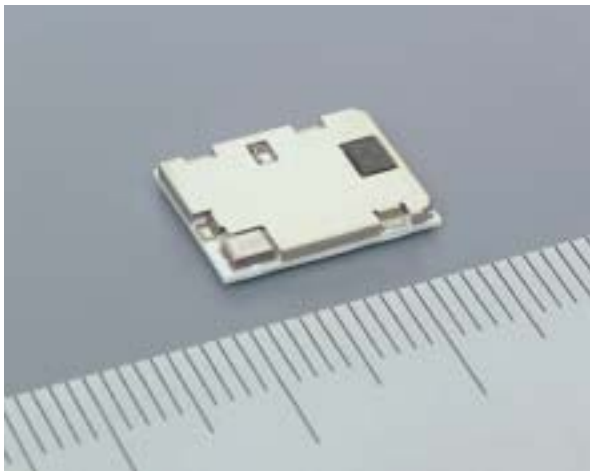
http://www.toshiba.co.jp/about/press/2004_06/pr_j2401.htm



ICチップサイズの超小型通信モジュール アルプス電気 「UGGZシリーズ」

アルプス電気は高速無線LANの標準規格IEEE 802.11bに対応したモジュールとしては業界最小の「UGGZシリーズ」を開発し、5月から量産を開始している。IEEE 802.11bは、デスクトップPCやノートPCなどに内蔵された、無線LAN規格ではもっとも普及している規格。さらに最近ではモバイル機器に搭載するニーズも増えてきているが、モバイル搭載のためには小型・薄型化、低消費電力化が課題となっていた。このシリーズは、こういった需要に応えるため、基板に部品を内蔵する高機能基板や、ICベアチップおよび0603サイズの小型チップ部品を採用して、容積0.27mlという小型化を実現した。サンプル価格は30000円。

http://www.alps.co.jp/j/press/new2004/0518_j.htm



●当欄では、モバイルやウェアラブル、環境等に関する新技術・新製品の情報を募集しています。

掲載をご希望の方は、メールアドレス info@natureinterface.co.jp に、「ウェアラブル情報スクラップ」の標題で情報をお寄せください。